

# 上田安子服飾専門学校

## 学校関係者評価報告書

(令和4年度)

学校法人上田学園

上田安子服飾専門学校

## I.学校法人上田学園 上田安子服飾専門学校 学校関係者評価報告書について

学校法人上田学園は、平成20年に、学校自己評価制度導入を図るために、自己点検部会を設立し、組織的な体制を築きました。その後、平成23年度より「学校自己評価報告書」を取りまとめ、平成24年度より本学園のホームページ上に公表しております。

また、平成25年度からは、本校に関係の深い方々からご意見等を頂戴し、今後の学校運営に反映させ、改善を図るべく「学校関係者評価」を実施しております。学校関係者評価委員会では、外部の視点に立った、多くの貴重なご意見、ご指導を賜り、改めて学校関係者評価の重要性を認識した次第です。ここに学校関係者評価の内容についてご報告いたします。

今後もより良い学校運営、教育活動を目指し、教職員一同尽力して参りますので、関係者の方々をはじめ皆様の、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

学校法人上田学園 理事長 上田哲也  
上田安子服飾専門学校 校長 田島 等

「学校関係者評価」の実施について

今回の学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に則し実施した「令和3年度学校自己評価報告書」に基づき、3名の学校関係者評価委員の方々に評価して頂きました。

その内容等について要約の上、以下のとおり報告いたします。

## II. 令和4年度上田安子服飾専門学校 学校関係者評価委員会開催概要

### 1. 日時

令和5年10月7日（土）10：00～12：30

### 2. 場所

上田安子服飾専門学校本館

### 3. 議事

- (1) 令和4年度自己点検・評価報告書の概要説明
- (2) 令和4年度事業報告書に基づき内容の説明
  - ・産学官連携事業について
  - ・国際交流について

### 4. 出席者

- ・企業関係者・卒業生 日比吉彦 関西整染株式会社
- ・地域関係有識者 三島 保 大阪市北区商店会総連合会 副会長
- ・教育関係有識者 池田 知隆 一般社団法人大阪自由大学理事長
- ・事務方 校長 田島 等

事務統括 小西 祐司

副校長 山田 浩之

副校長 東山 幹子

産学官連携推進室長 福田 新之助

ファッションクリエイター学科、ファッションクリエイターアドバンス学科、

ファッションクリエイター夜間学科学科長 大槻 剛

ファッションビジネス学科学科長 塩田 千織

ファッションプロデュース学科学科長 高木 義隆

ファッショングラフィックデザイン学科、スタイリングフォト学科長 野田 光晴

学生部 部長 金森 晋一

### 5. 配布資料

- (1) 学校関係者評価委員会構成
- (2) 令和4年度 上田安子服飾専門学校 自己評価報告書
- (3) 令和4年度 上田安子服飾専門学校事業報告書（抜粋）

### Ⅲ.外部評価委員からの評価と提言

自己評価報告書と添付資料に見る本校の教育の現況等について学校から説明を行い、これに対する評価・提言を外部評価委員に求めた。自己報告書全体を説明するとともに、

ガイドライン項目3 - 教育活動

ガイドライン項目4 - 教育成果

ガイドライン項目6 - 教育環境

ガイドライン項目10 - 社会貢献

についてとくに意見・提言があった。

この4項目についての学校側の説明要旨と外部委員の評価・提言は以下のとおり。

#### ○ ガイドライン項目3 - 教育活動について

##### 【学校の説明要旨】

・資料をもとに各学科の産官学連携プログラムについて報告した。

クリエイター、クラフト「もの作り分野」の連携に関しては事業の事前または事後に素材産地の見学を必須としている。またビジネス系の連携に関しても素材産地の見学・商品企画提案のプログラムが実現した。

##### 【外部評価委員からの評価と提言】 ⇒部【本校担当者からの回答】

#### ● ファッション・プロデュース学科

・入学者数の増加に向けて工夫したことはあるのか。(日比委員)

⇒新規に制作したPR動画活用や、オープンキャンパスにおいて卒業生であるインフルエンサーの講演会等が効果的であったようである。またワーク内容も学科の特徴が理解されやすいように工夫した。

#### ● ファッションクリエイター学科

・オートクチュールコースの衣装提供プログラムの学修効果はどうか。(日比委員)

⇒アイドル衣装などに触れる機会が多い学生たちが多く、本格的なクラシック・オペラの衣装について学ぶことはクリエイションの幅を広げる意味でも効果が大きかった。また大阪テーマパーク・ダンス専門学校との連携では同年代の演者を対象に制作し、コミュニケーションが図れる良い機会であった。

・ニットコースが開講して卒業学年を迎えたが成果はどうか。(池田委員)

⇒校内のコンテストで大賞や部門賞を受賞するなど、現在のファッショントレンドに合致していることもあり成果が上がった。

#### ● トップクリエイター学科

- ・「パリ・ファッションウィーク」の発表は毎回好評なようであるが日本のファッションの魅力をどのように伝えているのか（池田委員）

⇒世界のバイヤーに見ていただくためにあえて「日本趣味 - ジャパネスク」を打ち出すことはしていない。ただし国内の高品位な素材はこの企画の重要な部分である。今回の作品群には愛知・有松鳴海絞加工が施されている。これに向けて4月に現地で研修を実施した。

●ファッションクリエイターアドバンス学科、ファッションクリエイター夜間学科

- ・学科の充実に向けた取り組みはどうか。（三島委員）

⇒兵庫県の株式会社東播染工と連携して現地で宿泊しながら研修できる施設を整備した。また夜間学科主催による特別セミナーはワークショップ形式の授業が実現し好評を得た。

●ファッションクラフトデザイン学科

- ・イタリア研修について学生の反応や成果はどうだったのか。（日比委員）

⇒徹底した感染対策を講じつつ実施した。学生のレベルの向上もあり、フィレンツェの連携校である Palazzo Pucci 校のインターンシップ先であるシューズ・バッグ工場、ハイブランド製造工場などで働ける道筋ができています。こういった面を学科の強みとして学生募集にも繋げていきたい。

●スタイリングフォト学科

- ・海外研修の学修効果はどうか。（池田委員）

⇒昨年度中止したオーストラリア・PSC校での研修が実施でき、現地の学生と交流しながら学べたことで海外の学生の考え方を実感できたことで作品にも変化が現れるなどの効果があった。

●ファッションビジネス学科

- ・業界の変化を意識した教育プログラムのについて新しい取り組みはあるか。（池田委員）

⇒昨年度から兵庫・播州産地との取り組みは川上の業者との連携をとおして商品企画等の教育プログラムに活かせる貴重な機会であった。また SDGs への理解を深める意味もあり、「古着ビジネス」について講師を招請し、バイイングから販売までのプロセスを一貫して学ぶことができた。

○ ガイドライン項目4 - 教育成果について

【学校の説明要旨】

- ・資料をもとに各学科の休・退学率、就職率、就職先データについて報告した。

**【外部評価委員からの評価と提言】**

・高校時代をコロナ禍の中で過ごしたため対面学習に戸惑う学生もいると聞くが、退学・休学防止のために工夫した点はどうか。(日比委員)

⇒「グーグルクラスルーム」を有効活用して連絡や情報を発信することで体調不良の学生の学びに遅れが出ないように努めている。また学習に不安を抱えていると感じられる学生には早期に面談や補習を実施するよう心がけている。

○ ガイドライン項目 6 - 教育環境について

**【学校の説明要旨】**

・事業報告書に基づき、ITC 環境や教室の整備等について説明した。

**【外部評価委員からの評価と提言】**

・校内の ICT 環境の整備の成果はどうか。(池田委員)

⇒Wi-Fi 環境が整ったことで実習科目の動画がそれぞれに見られることになり、効果が上がっている。また教務管理をデジタル化したことで学生・クラスの状況に変化にいち早く気付くことができることとなった。

○ ガイドライン項目 10 - 社会貢献について

**【学校の説明要旨】**

・企業・団体との取り組みについて説明した

**【外部評価委員からの評価と提言】**

・感染対策に配慮してリアル・イベントが実施できたことは喜ばしい。また高槻支援学校との連携は多様な人々に向けてのファッションについて学生が理解する良い機会であり評価できる。(三島委員)

○ ガイドライン項目 11 - 国際交流について

**【学校の説明要旨】**

・各学科の国際交流の実績について報告した。

**【外部評価委員からの評価と提言】**

・マレーシア MSU 大学との交換留学が実現して成果が上がったことは素晴らしい。またこのような取り組みを世界に広げて欲しい。

(池田委員)

以上であり、外部評価委員より示された提言については、所轄部署においてこれを踏まえ改善策を検討するものとする。その他の項目について自己評価報告書は適当であると認められた。

以上